

平成 29 年 6 月 16 日現在

機関番号：13601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2016

課題番号：23531179

研究課題名(和文)鑑賞教育における図像学的読解メソッドの研究

研究課題名(英文)A Study of the Method of Iconographic Reading in Appreciation Education

研究代表者

岡田 匡史 (OKADA, Masashi)

信州大学・学術研究院教育学系・教授

研究者番号：30194369

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：次の課題4点、「図像体系の構築」、「テキスト研究」、「指導法研究」、「鑑賞題材開発」を、当初計画を適宜修正・調整しながら進めた。研究遂行に当たり、図像学的分析が進む西洋絵画を厳選し、選定作品を学習材とする鑑賞授業を基本的枠組として設け、その枠内で上掲4課題の重点的かつ相互連関的な探求を継続した。その結果、西洋絵画(特に宗教画)の読解に要す基本図像の体系的整理、絵を読むのに要す諸テキストの整理、段階型鑑賞プログラムに基づく各種鑑賞題材の提案、そして、授業検証が達成できた。最終的に図像学的読解メソッドの概念を拡張でき、「自由解釈、テキスト準拠型鑑賞、図像学的読解」で成立する学習モデルも明示できた。

研究成果の概要(英文)：The researcher pursued four themes, 'the construction of iconographic system, the research of texts, the investigation of teaching approaches and the development of appreciation subjects,' revising and coordinating the first plan. In every study, he carefully chose one Western painting progressing in iconographic analysis as a learning material, set up an appreciation class as a basic framework and qusted four themes intensively and interrelatively in this framework. Consequently he actualized the organization of iconographic elements to read objects (particularly in a religious category), the arrangement of texts for comprehending pictorial images, the suggestion of appreciation classes based on structural programs built by some stages and a verification lesson. The idea of the reading method based on iconography could be expanded and he finally presented a learning model, which consisted of three main parts, 'free interpretation, text-based research and iconographic reading.'

研究分野：美術教育学

キーワード：鑑賞教育 国際理解 読解的鑑賞 読解力育成 自由解釈 テキスト準拠型鑑賞 図像学的読解 西洋絵画鑑賞 美術を通した

1. 研究開始当初の背景

小・中『学習指導要領』(平成20年3月改訂・告示)で、言語活動の充実を柱に、読解力(知識活用能力も含む)の育成が全教科の課題とされ、図画工作科・美術科で本課題を扱う領域が鑑賞との認識を文科省が示した点が、本研究に取り組む重要な一動機となった。が、読解を主とする鑑賞教育は日本だと範例的論考及び実践に限られ、欧米で先行する読解的鑑賞を手探りに近い状態で参照しながら研究を進めた。そうした進展過程で、絵を見ることから絵を読むことにシフトする鑑賞教育を想定し、西洋絵画史研究で定立した学問分野の1つ、図像学に着目した。図像学的知見を基盤に1枚の絵を多角的・立体的に解釈する鑑賞題材の提案は、『art education』(米国の美術教育誌)で1980年代中盤より連載開始となった“Instructional Resources”に諸例見出し参考とした。加えて本誌掲載の多くの鑑賞題材が、E.B.フェルドマン提唱の4段階批評鑑賞メソッド(観察&記述 視覚的分析 解釈 評価)をベースに指導手順を計画していた点を受け、読解的鑑賞プログラム作成に際し、先行諸題材に学び、段階型鑑賞学習のモデルを使うことが有益と判断した。

2. 研究の目的

読む鑑賞(Reading-Oriented Appreciation)、即ち読解的鑑賞が如何なるものかを明示することが本研究の最重要な目的となる。敷衍すると、選定作品・授業展開・指導法・題材内容等に関し綿密に検討を加える作業を通じ、読解的鑑賞の実践的な具体像を示す点を枢要なパートとした。絵を読むという知識ベースの言語的認識と結び付く鑑賞指導メソッドの提起に際し、最初の入口を図像学とし、その精査の上で絵画読解に要す広範な図像学的知識の解り易い体系化を図り、学習者が得た図像学的知識を、絵を読む場面で実際に使えるようにする工夫の検討も課題とした。また、図像学の主要対象が西洋絵画となる現実も寧ろ有効活用すべきと判断し、絵を読む学びを西洋文化理解の次元で捉え、読解的鑑賞の異文化理解教育的アプローチの可能性を探ることも目標の一角とした。さらに研究遂行過程で、西洋では絵(特に宗教画系譜)が元来読解を目的に成立した経緯に着目し、主題的・物語的に絵が拠り所としたテキスト(図像学とも密接に関わる)の検討も、読解的鑑賞を追求する上で必須と判断し、テキストを調べることも課題とした。

3. 研究の方法

始動時のプランは、「図像体系の構築」、「テキスト研究」、「指導法研究」、「鑑賞題材開発」を原則この順に行う形だったが、4点が相互に複雑に絡まり合う実態への対応が要請されることから、1つの授業を研究の核に据え、各授業を単位として4点の同時的探求も図れる柔軟な仕方に切り換えた。具体的には絵(=

鑑賞対象)を厳選し、その絵を基幹とする読解重視の鑑賞授業を1つ掲げ、その枠内で4点を連携的(時に総合的また相補的)に扱い、かつ、課題個々の重点的探求も可能な限り進め、最終的に読解的鑑賞題材の十全な構築を目指した。そして、可能な場合、開発題材の授業検証も実施することとした。

授業の本質的部分を成す選定作品は、次の通りである。なお、第1期で選んだ絵以外は、日本の学習者にリアルな作品関連情報を提供し、西洋文化理解を促す目的で、所蔵先現地に赴き実物確認を集中的に実施した。

【第1期】ジョヴァンニ・ディ・パオロ「天地創造と楽園追放(1445年)」

【第2-3期】ジャンティエーレ・ダ・ファブリアーノ「マギ(東方三博士)の礼拝(1423年)」

【第4期】ヒューボ・ファン・デル・フース「ポルティナリー祭壇画(1475-80年)」

【第5-6期(パリ同時多発テロの影響で研究遅延が生じ、1期分期間延長が承認された。)】カラヴァッジョ「聖マタイの召命(1599-1600年)」

上掲の主幹的研究と様々に関係する萌芽的・支流的諸主題の検討も複線的に進め、その内容は所属学会で口頭発表し、研究の拡がり蓄積を図った。

4. 研究成果

当初計画の4課題、「図像体系の構築」、「テキスト研究」、「指導法研究」、「鑑賞題材開発」は、研究の進め方を適宜修正・調整しながら、授業という一括りの総体的研究対象の中で最終的に総てを達成でき、計4種類の鑑賞授業プログラムも構築(一部授業検証)できた。主幹を成す研究成果は計4篇の学会誌投稿論文にまとめ、何れも査読を経、掲載となった。萌芽的・支流的に位置付ける研究諸成果は、所属学会で口頭発表(計8回)できた。

以下、各期研究成果を記す。

【第1期】絵を読む学びの意義を明らかとしたから、絵と関係する図像学事典類及びテキスト群を調べ、図像学的知識とテキスト情報とを統合した解釈総覧表を作成した。4段階批評方式(E.B.フェルドマン創案)を参照し、各段階の検討から調査(知識獲得)段階と再解釈段階を加え補う、4段階を改良した6段階の鑑賞授業プログラムを提起できた。

【第2-3期】PISA資料を基に読解概念を分析し、絵を読むとは如何なる活動かを明らかとした。絵が依拠する諸テキストの精査と連動する形で、テキストの継時的進行を絵ではどう視覚化・空間化するかを検討した結果、計8種の表現方略を示せ、本成果を基に、「言語から視覚、時間から空間、話から絵へ」という3つの変換様態を押さえ、読解的観点から絵の時間構造の特徴を一覧化し明瞭化できた。以上踏まえ、絵の時間構造を学ぶ段階も設け、全体を組み立て直し、7段階で成る鑑賞授業プログラムを構想できた。

【第4期】知識が想像力の発露を阻むとの一般的主張を前に、知ることを軽視する姿勢と

して批判の対象とした対話型鑑賞(関連しVTS)を改めて検討し,読解的鑑賞では図像学的知識やテキスト情報を基盤に読む他に,既得情報・既習体験ベースに何ら束縛無く見て楽しみ解釈する段階も大切であるとの認識に到り,自由解釈パートをどう組み込むかの検討から,6段階鑑賞プログラムの最適化を試みた。以上踏まえ,「自由解釈,テキスト準拠型鑑賞,図像学的読解」の3パートで成る読解学習モデルを提案できた。

【第5-6期】読解ベースに,美術を通した西洋理解を促す学習も視野に入れた題材開発を目指し,祭壇画設置状況の現地確認で得られた体験を鑑賞授業プログラムの組立てに応用する等,日本の学習者に臨場感に富む西洋絵画理解を提供できる方途を模索した。学習材として扱うカラヴァッジョ「聖マタイの召命(1599-1600年)」の専門家の学術的研究からも学ぶ中で,読解概念を拡張し,聖マタイは誰か探すゲームや登場人物を模す展開の導入を図った。対話型鑑賞を自由解釈段階で使う構想も練り,最終的に「観察・発問・討議・自由解釈 情報提供と調べ学習 ロールプレイ 補足説明 総括」の6段階(小項目数は計23個)で成る読解的鑑賞プログラムを確定できた。鹿野耕平教諭(信州大学教育学部附属松本中学校)の協力下で,本プログラムの前半3段階を重点的に検証する授業機会を得,ワークシートの学習者コメントを資料とする読解的鑑賞分析を通じ,創話性に優れる自由解釈の意義・有効性が実証でき,さらには自由解釈と知識補填の両段階が,自説対他説と拮抗し合うのでなく,寧ろ相補的に併存し得るとの結論を得た。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計6件)

- (1) 岡田匡史,カラヴァッジョ「聖マタイの召命(1599-1600年)」を学習材として使う読解主軸の鑑賞授業の考察 授業検証を通じた観察,自由解釈,情報提供(知識補填),ロールプレイ等の分析を中心に,美術教育学 美術科教育学会誌第38号,2017,美術科教育学会,pp.151-165,査読有。
- (2) 岡田匡史,カラヴァッジョ「聖マタイの召命(1599-1600年)」の多角的読解の試み 祭壇画鑑賞の一提案,美術教育学 美術科教育学会誌第37号,2016,美術科教育学会,pp.179-194,査読有。
- (3) 岡田匡史,ヒューホ・ファン・デル・フォース「ポルティナーリ祭壇画(1475-80年)」鑑賞のための3種類のアプローチ 自由解釈,テキスト準拠型鑑賞,図像学的読解,美術教育学 美術科教育学会誌第36号,2015,美術科教育学会,pp.95-118,査読有。
- (4) 岡田匡史,ジャンティエーレ・ダ・ファブリアーノ「マギ(東方三博士)の礼拝(1423

年)」の題材化 キリスト教絵画の読解的鑑賞の実験的試みの一提案:テキストと時間構造の焦点化,美術教育学 美術科教育学会誌第35号,2014,美術科教育学会,pp.95-118,査読有。

- (5) 岡田匡史,ジャンティエーレ・ダ・ファブリアーノ「マギ(東方三博士)の礼拝(1423年)」の読解的鑑賞(試案) 鑑賞教材開発の準備段階の研究(テキストと時間構造を中心に):鑑賞教育における読解的鑑賞法と対象作品の分析,大学美術教育学会誌第45号,大学美術教育学会,2013,pp.103-110,査読有。
- (6) 岡田匡史,ジョヴァンニ・ディ・パオロ「天地創造と楽園追放(1445年)」の読解的鑑賞 6段階鑑賞法の提案,大学美術教育学会誌第44号,大学美術教育学会,2012,pp.143-150,査読有。

〔学会発表〕(計8件)

- (1) 岡田匡史,レンブラント「夜警(1642年)」の鑑賞題材化の試み 集団肖像画の読解的鑑賞(物語を感じ取り想像し読む),第55回大学美術教育学会,2016.9.25,北海道教育大学札幌校(北海道)
- (2) 岡田匡史,静物画の読解的鑑賞 「ヴァニタス」という視点,第54回大学美術教育学会,2015.9.21,横浜国立大学(神奈川県)
- (3) 岡田匡史,静物画の源流的様式の読解的鑑賞 「プレ静物画」を学ぶ可能性の検討,第37回美術科教育学会,2015.3.28,上越教育大学(新潟県)
- (4) 岡田匡史,読解ベースの西洋絵画鑑賞の一提案 リュバン・ボーザン「チェス盤のある静物(五感の寓意)」の三層の読み取り,第53回大学美術教育学会,2014.10.4,福井大学(福井県)
- (5) 岡田匡史,ロベール・カンパン「メロデー祭壇画(1425-30年頃)」の読解的鑑賞の提案,第36回美術科教育学会,2014.3.29,奈良教育大学(奈良県)
- (6) 岡田匡史,「受胎告知」の題材化 キリスト教絵画の読解的鑑賞の一例,第52回大学美術教育学会,2013.10.12,京都教育大学(京都府)
- (7) 岡田匡史,ドメニコ・ギルランダイオの祭壇画(聖子礼拝図)2点の読解的鑑賞(試案) テキスト,図像学,アトリビュート(象徴的持物),第35回美術科教育学会,2013.3.29,島根大学(島根県)
- (8) 岡田匡史,ジャンティエーレ・ダ・ファブリアーノ「マギ(東方三博士)の礼拝」の読解的鑑賞(試案) テキストと時間構造,第34回美術科教育学会,2012.3.28,新潟大学(新潟県)

6. 研究組織

- (1) 研究代表者
岡田匡史(OKADA, Masashi)

信州大学・学术研究院教育学系・教授
研究者番号：30194369